

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立湖東中学校）

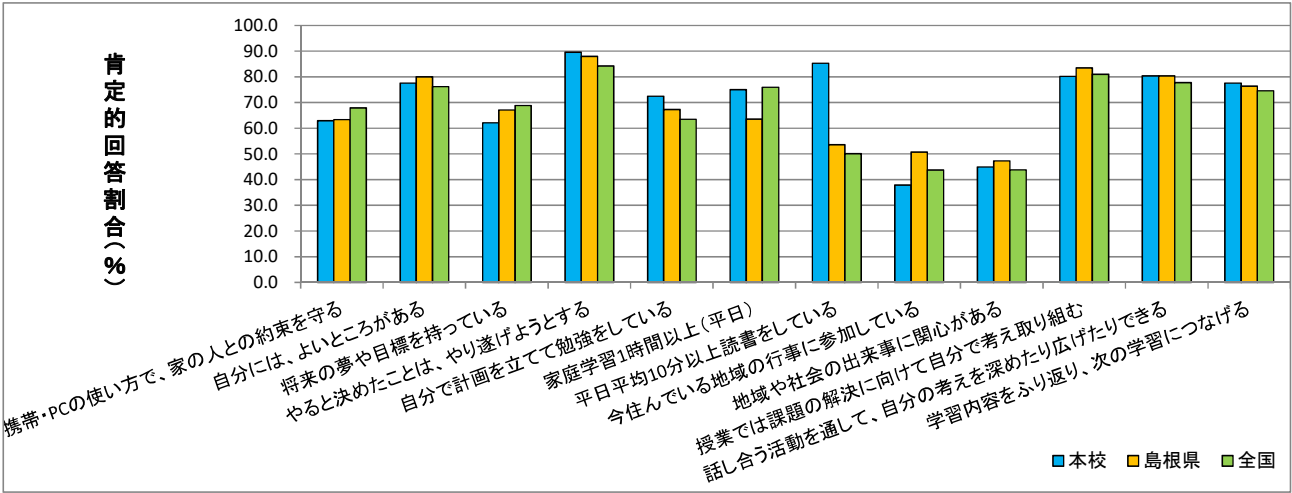
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○目的に応じて自分の考えをわかりやすく書いたり、表現を工夫して書いたりしていると答えた生徒の割合が多い。 ●問題文全体を見通さずに、設問部分だけを見て回答するため正答率が低いと思われる設問がある。まとまった文章を通読して、条件に合わせて回答する設問で無答率が高い傾向がある。	・学習グループを作って、グループで協力することで教科書教材などのまとまった文章を注意深く読み取る活動を取り入れてきた。今後は読解力の向上をめざし、グループで読み取った内容の正しさや、考えの深さについて、より正確に確認し合う学習方法を工夫していきたい。言語事項の復習の機会を増やし定着を図りたい。
数学	○「授業はよく分かる」「理由を理解するようにしている」「考え方が分かるようにノートを書いている」と回答した生徒が多いことから、意欲をもち、まじめに授業に取り組もうとする姿勢が感じられる。 ●全ての領域において県の平均正答率を下回り、特に「数学的な技能」が低く、説明を記述する問題では無解答率が高い。	・既習事項の復習を入れることで、学び直しの機会をつくる。 ・練習問題を難易度別に組むことで、できたと実感できるようにする。 ・週末課題やレポート作成により、学力の定着を図る。 ・自信をもって自分の考えが発言できるよう、グループ学習形態を取り入れ、間違いを含め、多様な発想を取り上げて授業を展開する。

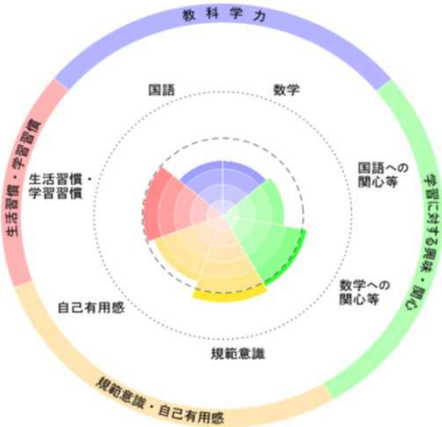
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○平日に家庭学習を1時間以上している生徒が75%と、県や全国を10ポイント以上上回っている。「フクスタ」ノートの活用成果と考えられる。 ○平日10分以上読書をしている生徒が85%と、県や全国を20ポイント以上上回っている。朝読書が習慣化している成果と考えられる。 ●地域の行事に参加している生徒が県や全国と比較して顕著に少なく、地域や社会の出来事への関心の低さにも関連していると思われる。 ●携帯・PCの使い方や家庭でのルールが守られている生徒が県や全国に比べ少ない傾向にある。	・PTAが中心となり、メディアとの適切な付き合い方について親子で学習する機会を作る。 ・中学生が地域活動に積極的に参加する態勢を整え、自己有用感の向上を図る。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・不登校生徒や低学力生徒に対する学力保証
- ・地域活動に積極的に参加する態勢の確立

【受検者数 116 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。